

カア=アブ=トレイハ西遺跡出土の台石について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2914

「カア＝アブ＝トレイハ西遺跡出土の台石について」

田中 範裕

カア＝アブ＝トレイハ西遺跡（以下 QATW）は、ヨルダン南部のジャフル盆地に位置する初期遊牧民遺跡である。この遺跡には、後期新石器時代にあたる第 4 層の遺構と、前期青銅器時代にあたり、板状スクレイパーの製作が確認されている第 3 層の円形遺構が存在する。また、第 3 層からは、石灰岩製の台石も報告されているが、これまでの研究では台石自体の研究は行われていない。従って、本稿では、台石製作方法をはじめとして、QATW の各遺構の板状スクレイパーとの関係や台石の使用方法を明らかにすることを試みた。

台石の作業面の大きさや形状、台石の高さについての分析の結果、台石の作用面および高さにおける規格性の存在が明らかとなった。その結果、QATW における台石製作方法を明らかにすることができた。遺跡全体の台石の高さの規格性は、原石を調達する際の意図的な露頭の選択を表しており、台石の形状は、作業面を円形に近づけようとする成形の意図を表している。

また、各遺構の台石の出土点数から、台石の使用方法を考察した。その結果、台石がこれまでいわれてきたような板状スクレイパーの素材分割の際の作業台ではなく、板状スクレイパーの二次調整の際の作業台であることが示唆された。

更に、分析の結果、台石製作技術の盛衰と板状スクレイパーの盛衰はおおむね一致していることが判明した。また、都市の盛衰は、板状スクレイパーの盛衰に大きく影響していた。従って、都市の盛衰は、板状スクレイパーを通じて台石製作技術にも影響を与えていたといえる。つまり、台石製作技術

の盛衰は、都市の影響を大きく反映していたといえよう。

これまで QATW や QATE 下以外の石器製作址から台石は見つかっていない。これについては2つの可能性が考えられる。第1に、石器製作に台石を用いるという技法が QATW 周辺にのみ存在する特殊な技法であったということ、第2に、台石が自然石と見分けがつきにくく、また、台石が石灰岩製石器であるためにこれまで報告されてこなかったということである。おそらくは後者であろう。実際、写真のみの報告のため判断しかねるが、イスラエルの Ramat Saharonim North という遺跡では、板状スクレイパーの周辺から石臼とされる石灰岩製の石器が見ついている。これらについても台石である可能性が考えられよう。

本稿では、これまでほとんど取り上げることのなかった台石という石器製作道具から、板状スクレイパーの製作方法の一端、および板状スクレイパーを通して都市の盛衰が台石製作技術に与えた影響を探ることができたといえよう。